



# 日高山脈 写真 コンテスト

応募作品視点場MAP

日高山脈の国立公園指定を応援するために  
2020年、日高山脈写真コンテストを実施しました。

皆さんから寄せられた日高山脈への思いが詰まった  
作品の中から、絶景スポットを紹介します。

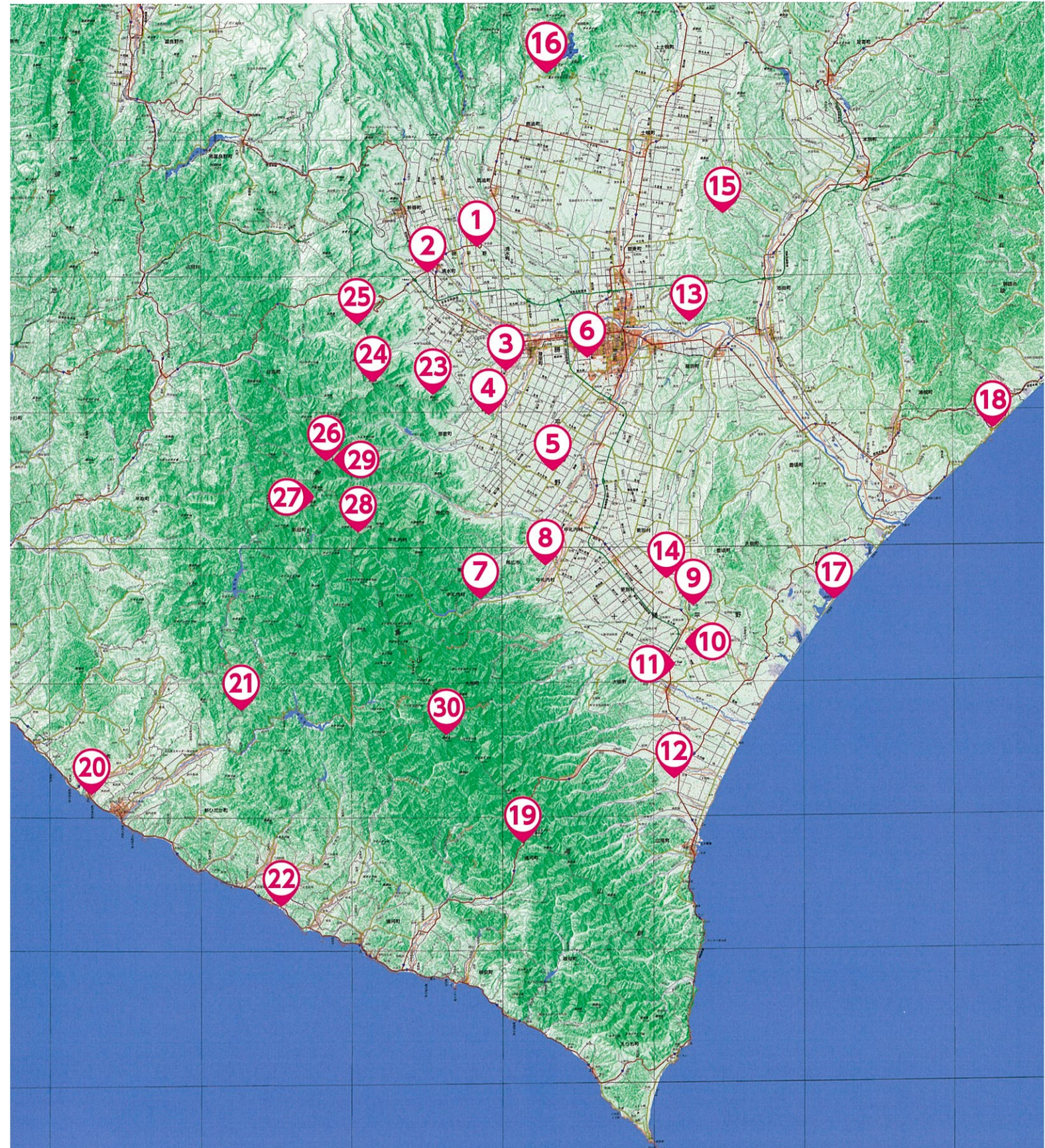
日高山脈国立公園化推進事業実行委員会



# 日高山脈写真コンテスト撮影場所位置図

## 撮影地を訪れる際の注意

- ・農地や私有地への立入はご遠慮ください。
- ・駐車にあたっては、周辺住民の方の迷惑とならないよう、十分ご注意下さい。
- ・花や植物を採らないで下さい。







「日高の勇姿」 撮影者：平山 宏照

① 清水町 美蔓パノラマパーク

清水町・美蔓パノラマパークからの眺めです。



「桜を見守る日高山脈」 撮影者：小田 智保

② 清水町 清水公園

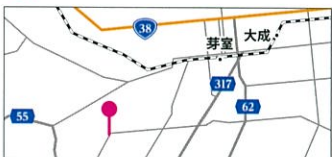
十勝清水町の公園から桜と日高山脈を撮影しました。



「春近し」 撮影者：仲野 裕司

③ 芽室町 美生6線周辺

雪解けが間近の3月、雪原から立ち上る水蒸気で剣山がシルキーな雰囲気にもまれる夕暮れでした。



「残雪のポロシリ」 撮影者：片山 祐二

④ 芽室町 新嵐山スカイパーク

芽室町新嵐山スカイパークからの十勝幌尻岳。



「菜の花と日高山脈」 撮影者：小枝 清子

⑤ 帯広市 美栄町西3線周辺

朝の澄み切った空気の中、一際綺麗な日高山脈と菜の花の黄色に心が癒されました。



「夏色の農村風景に日高山脈が引き立つ」 撮影者：田中 一豊

⑥ 帯広市 帯広の森『もり山』

自宅からの散歩コースにある、帯広の森『もり山』四季を問わず、日高山脈の雄姿が望めます。夕陽スポットとしてベストです。







「夕暮れの札内川園地キャンプ場」 撮影者：梶山 智大

⑦ 中札内村 札内川園地キャンプ場

夏の夕暮れ時、日高山脈の麓に広がる札内川園地キャンプ場。川の流れる音、風の音、木々の音、動物、昆虫の声を楽しめます。



「日高山脈を眺めながら」 撮影者：玉造 晶

⑧ 中札内村 一本山展望タワー

中札内村の展望タワーから見た景色がとてもきれいでした。



「春の街」 撮影者：山崎 和夫

⑨ 幕別町 丸山展望台

5月、忠類丸山展望台からの景観。ここからは日高の山並みが見渡せるほか、太平洋を観ることができる絶景ポイントです。



「夏のひととき」 撮影者：山崎 和夫

⑩ 幕別町 シーニックカフェちゅうるい

7月、忠類シーニックカフェからの眺めです。農村景観と日高の山と青空が十勝らしくお気に入りの場所です。



「日高晩秋」 撮影者：片山 祐二

⑪ 大樹町 蒨和山展望台周辺

大樹町蒨和、カラマツの紅葉と山の連なり(楽古岳・十勝岳)のコントラストが映える。



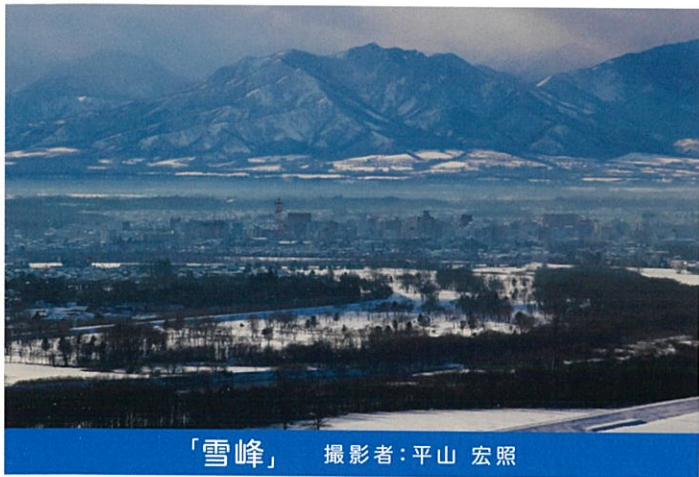
「春、晴れた朝に」 撮影者：山崎 和夫

⑫ 広尾町 野塚周辺

5月早朝、残雪残る日高の山が輝いており、酪農牛舎とともに撮影しました。



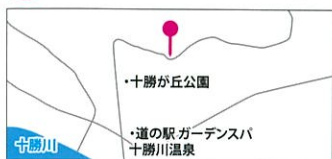




「雪峰」 撮影者：平山 宏照

13 音更町 十勝が丘展望台

音更町の十勝が丘展望台からの風景です。日高山々に見守られているかのように広がる帯広市街。壮大な光景です。



「白の世界」 撮影者：佐々木 郁太郎

14 更別村 弘和周辺

畑の畝にかかる影のコントラストと樹氷の防風林。そして凛と立つ白い日高山脈。白い芸術的な世界が広がっていました。



「春の日高山脈遠望」 撮影者：久保 敬司

15 本別町 美加登周辺

本別町からは遠い日高山脈は、綺麗に眺望できることは少ないです。この日は北から中部までスッキリと春の日高を眺望できました。



「扇が原より日高を臨む」 撮影者：仲野 裕司

16 鹿追町 扇が原展望台

好天に恵まれた「扇が原展望台」から見る残雪を残す日高の山並みはこの上なく美しく輝いていました。



「海から望む日高山脈」 撮影者：松原 明美

17 豊頃町 湧洞沼

花の撮影で豊頃町湧洞へ行った時、荒れる太平洋の波の向こうに日高の山並みを見る。



「雪嶺を望む冬の海」 撮影者：田澤 米子

18 浦幌町 厚内海岸

寒々とした冬の海にくっきりと日高山脈の雄大な姿を何ものにも替えがたい十勝の財産であると思います。







「旅の思い出」 撮影者：玉造 晶

19 浦河町 翠明橋公園

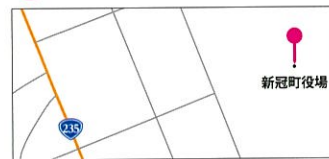
日高山脈の美味しい地下水をご馳走になり、天候にも恵まれた翠明橋公園での思い出です。



「役場庁舎から望むイドンナップ岳と幌尻岳」 撮影者：新宮 信幸

20 新冠町 新冠町役場

日高山脈の美しさは、職場の窓ガラスからの眺めで知りました。仕事で大変な時も、少し心が落ち着きました。



「紅葉の静内川上流域」 撮影者：谷岡 隆

21 新ひだか町 静内川上流

初雪も真近に迫る10月下旬、日高山脈の麓を流れる静内川上流域の紅葉が美しい。



「ベストショットが撮れそう」 撮影者：榊 浩明

22 新ひだか町 道の駅みつし

牧場の向こう側に日高山脈が見えるんです。道の駅に車を止めて、道路を横断するときは見とれずに左右確認を忘れずに。



「十勝平野を眺む」 撮影者：三浦 早智子

23 剣山山頂

初めて身近な「剣山」に登りました。山頂にささる剣の標識とそこから見下ろす十勝平野はどちらも壮大でかっこよく大地の息づかいを感じました。



「芽室岳山頂から十勝平野を望む」 撮影者：片山 祐二

24 芽室岳山頂

清水町御影、好天であればさらに土幌町と足寄町まで見えそうです。







「風雪のペケレベツ岳」 撮影者：久保 敬司

25 ペケレベツ岳



まだまだ寒さの厳しい十勝の2月、北日高のペケレベツ岳に登りました。夏のペケレベツ岳は登り易い山ですが、この時は冬山の厳しい寒さと風雪にさらされました。雪庇の発達した稜線は、悪天候と風雪でモノトーンの世界でしたが、厳しくとも美しい山でした。



「夢の途中」 撮影者：山崎 志津子

27 幌尻岳山頂付近

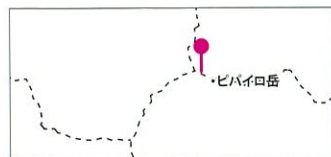


チロロ林道からヌカピラ岳～北戸髙別岳～戸髙別岳～縦走中にて。憧れだった幌尻岳山頂までアタック中。右に見えるのは七つ沼カールです。この日午前中もカール内でクマの目撃情報アリでした。登ったのが9月ということで、紅葉も綺麗でした！



「彩雲の稜線！」 撮影者：久保 敬司

29 ピパイロ岳

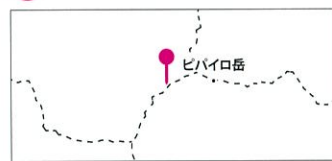


初夏の季節、ピパイロ岳に登った時に現れた彩雲です。ピパイロ岳から北戸髙別岳、戸髙別岳、日高幌尻岳と続く稜線の上空に現れました。まだ6月初旬の山は登山道の多くは残雪に埋まっていますが、伏美岳からピパイロ岳への稜線は北日高山脈を左手に望みながら快適に歩けます。



「山肌が燃えるとき」 撮影者：佐藤 力

26 1967峰

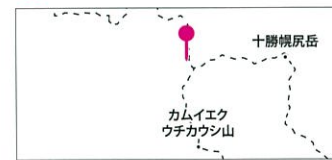


2015年9月21日早朝に1967峰から幌尻岳方面を撮影しました。前日は昼過ぎから防風雨で寒さに震える夜を過ごす事となりましたが、翌朝目覚めると朝陽を浴びて真っ赤に燃え上がった紅葉した山肌を見て驚きました。



「カムイエクウチカウシ山」 撮影者：渡辺 陽

28 エサオマントッタベツ岳山頂



岳人の憧れカムイエクウチカウシ山北東面エサオマントッタベツ岳からの縦走途中で見えるこの山の勇姿。



「峻険ナイフリッジ」 撮影者：奥谷 忠浩

30 神威岳



神威岳周辺は、とても峻険な国境稜線が続いています。日高山脈の顔と言っても過言ではないと思います。



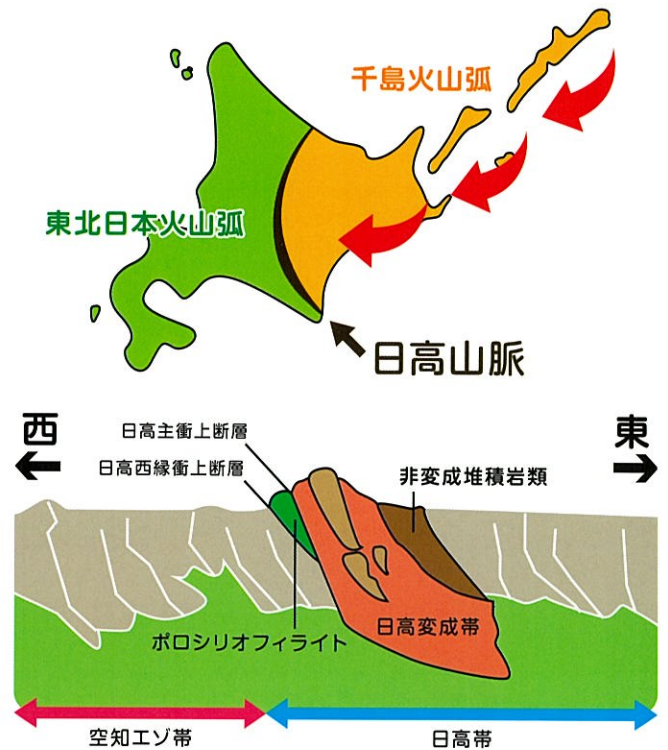
## 『北海道の背骨』 日高山脈

スプーンで削り取ったようなくぼ地が山頂付近で見られることがあります。氷河が削ったカールという地形です。日高山脈ではカールが2段に分かれており、氷河の前進期が少なくとも2回あったことが分かっています。これらが作られたのは最終氷期(8万年前から1万年前)の話で、研究された山にちなんでそれぞれトツタベツ亜氷期(2万年前)、ポロシリ亜氷期(4万年前)と呼ばれています。

## 日高山脈はこうして生まれた

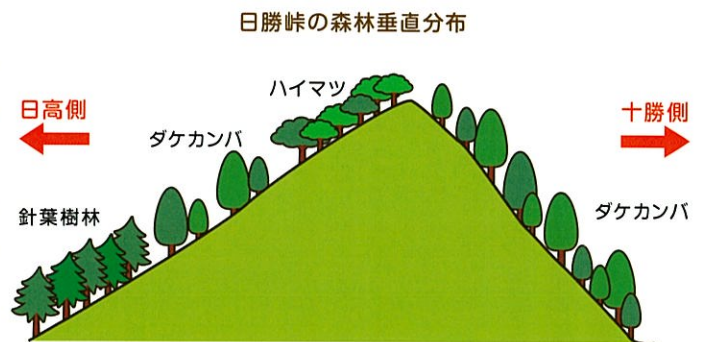
今の日高山脈の場所は、昔は海が広がっていました。地球は卵の殻のような「プレート」という薄い板で覆われています。このプレートが二つ、昔の海底で衝突を起こしました。東西両側から押されて海はだんだん浅くなり、最終的に片方のプレートが勢いあまってめくれあがりました。めくれた厚さは20kmにもなります。この部分が高く隆起し、日高山脈へと成長していきました。

日高山脈は西側ほど深い部分を見せています。東嶺では非変成の堆積岩類が見られますが、西に向かうにつれて温度が上がっていき、もっとも西側では800℃という高温に達したような石が見られるようになります。マグマ溜まりもそのまま残っています。私たちは居ながらにして地球の断面を見ているのです。



## 日高山脈の森林

日高山脈の森林は山脈西側(日高側)と東側(十勝側)で大きく異なった様相を見せます。西側北部域ではエゾマツ、トドマツからなる針葉樹林が発達し、沙流川、ウエンザル川、パンケヌシ川流域で顕著です。南に下るとミズナラなどを交えた針広混合林となり、一部にはキタゴヨウ(ヒダカゴヨウ)も見られます。一方東側では圧倒的にダケカンバが優勢となっており、高山帯下部にまで及びます。ダケカンバの優勢は狩勝峠、日勝峠などをはじめ、随所に見られます。広葉樹林は山脈南部域の両側で発達しています。また高山帯に分布するハイマツは大雪山では標高1,800m以上に分布していますが、日高山脈では標高1,100mでも見られます。この違いは、風が強く尾根が岩石地であるなど樹木にとって日高が激しい環境である事を反映しているためとみられます。なお、札内川、猿別川、日高幌別川などに分布するケシヨウヤナギもたいへん貴重な存在です。



## 日高山脈国立公園化推進事業実行委員会

事務局: 帯広市都市環境部環境室環境課 北海道帯広市西5条南7丁目1 TEL 0155-65-4136